



学校便り「尚徳」12月号

第473号

鳥取大学附属小学校

平成23年12月15日

<http://www.fuzoku.tottori-u.ac.jp/~fusho/>

題字「尚徳」は、住川英明教授（地域学部）



はじめての大合唱

校長 小枝 達也

12月11日、附属学校部の子どもたちによる大合唱が行われました。幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校という4つの校園には、1000名を超す子どもたちが学んでいます。その4校園で何かまとまったことができないだろうか、という想いを教職員はもっていたのですが、なかなか形にすることができずにいました。そうした中で、合唱をすることで東日本大震災へ希望を届けようという声上がり、この度の「鳥取大学附属学校部 1000人の子どもたちによる大合唱」という形になりました。

3月11日に東日本大震災があり、本校の子どもたちは自発的に募金活動をしたり、鳥取市の活動の一環として寄せ書きを書いたりということは続けていきましたが、時とともに大震災があったことも記憶から薄れて行きつつあるように感じていました。同時に自分たちの防災意識も希薄になってきていることを懸念していました。あのような大自然の脅威を感じた出来事を、私達は忘れてはいけないと思います。あの出来事を子どもたちの高い防災意識へとつなげずして何の教育であるかと思います。

助けられたはずの命がありました。保護者に会わせて安心させることを優先した結果でした。「災害時は安心より安全を優先する」これを私は学びました。この学びを教職員と共に保護者の皆様とも共有

したいと思います。

さて、合唱の練習では、地域学部の西岡千秋教授に指導していただきました。西岡先生が一声かけるたびに、どんどん大きくてメリハリのある声が出るようになりました。また、列に並ぶ、指揮者を見る、曲の合間もおしゃべりをしないといった規律ある行動が身についていきました。やってよかった。本当にそう思います。少子化時代の鳥取で1000人もの子どもたちを擁する団体は、我が附属学校部において他にはありません。鳥取市の青年会議所の方々にも大変お世話になり、協力関係を結べたこともとても意義深かったと思います。地域と結びついた活動をこれからも続けていきたいと考えています。



【人権教育参観日】



11月24日、人権教育の学習参観、講演会を行いました。

1年の「わたしの名まえ」では、お家の人に手紙に書いてもらい、自分の名前にたくさんの思いが込められていることを知りました。2年の「ことばのまほう」では、言葉一つで人とつながることも、人を傷つけてし

まうこともあるということを学びました。3年では、「おなじことちがうこと」ゲームを通して個性を認めることの大切さに気づきました。4年では、福祉体験から「心のバリアフリー」について考えました。5年の学習「世界の人々の生活を知ろう」では、「地球家族」の写真を使ってこれからのわたしたちのくらしの在り方について考えました。

6年生は、人権講演会の講師矢崎節夫先生を招き、体験談や思いを聞かせていただき意見交流をすることができました。このように、各学年の発達段階に応じ、人権尊重の実践的態度を育成する学習を公開しました。

人権講演会では、金子みすゞ記念館館長の矢崎節夫先生に「み

んなちがって、みんないい。～金子みすゞさんのうれしいまなざし～」と題し、講演をしていただきました。金子みすゞさんの詩を引用されながら、私たちの中にある自分中心の考えに気づかされ、人にも自然にも優しいまなざしをもちたいと感じられたお話しでした。震災後、コマーシャルでも金子みすゞさんの詩がよく流されました。今、彼女の詩が強く指示されるのは今を生きる私たちの心の支えになる言葉がたくさん詰まっているからではないでしょうか。会場に置かれた詩集を手にする保護者の方もいらっしゃいました。

12月4日から10日は、人権週間でした。人権問題を身近な問題として捉え、相手の気持

ちを考え思いやることの大切さ について考えていきましょう。